

- 病院機能評価認定施設
- 医師臨床研修指定病院
- 地域医療支援病院
- 救急告示病院

山陰労災病院の基本理念

私たちは、地域の皆さまと働く人々から信頼され
選ばれる病院を目指します

足に見られる皮膚疾患

皮膚科部長 三島エリカ

2足歩行をする人類にとって足は大事なものですが、自分の足をしっかり見る機会というのは意外に少ないものではないでしょうか。

まず足が他の部位と異なる特徴は運動機能を有することや体重の負荷や靴・靴下・発汗などによる刺激があること、角層が厚いことなどです。そのため足の皮膚疾患があるために歩行障害を来すこともあります。

足部に限らず皮膚疾患は大きく腫瘍性疾患と非腫瘍性疾患に分かれます。

「腫瘍性疾患」 代表としては良性腫瘍の色素性母斑：いわゆる

「ホクロ」と悪性腫瘍のメラノーマ：いわゆる「ホクロのがん」があります。

以前は足の裏のホクロは悪性化の可能性があるので早期の切除が望ましいといわ





れてきましたが、近年診断の手助けとしてダーモスコピーが使われるようになり、典型的なホクロの所見があれば切除せず経過を見るという選択ができるようになりました。

「非腫瘍性疾患」代表は足白癬、胼胝、鶏眼、陥入爪でしょう。

足白癬はいわゆる「水虫」で白癬菌という真菌（カビ）の一種が角質層に棲み着くことによって起こる病気です。かゆみなどの自覚症状がないこともあり気がついていない方もおられます。抗真菌剤を塗ることでよくなりますが、少しよくなると治療をやめてしまわれることが多く、「なおらない」・「また時期になってきました」ということになりがちです。症状がなくなっても1ヶ月以上は薬を塗り続けてください。足白癬と誤って治療しているのに治らない場合に足白癬に見た目が似た掌蹠膿疱症があります。病名の掌蹠からわかるように手のひらと足の裏に小さな膿疱が多発し、軽快増悪を繰り返し、慢性に経過するものです。扁桃炎や歯（虫歯）歯周病などの感染があることが多くみられます。

胼胝・鶏眼は機械的刺激による限局性の角質肥厚を来す疾患で胼胝はいわゆる「タコ」で足底、手掌、指趾など反復して刺激を受けやすい部位に好発します。鶏眼はいわゆる「ウオノメ」で体重がかかる足底や靴による刺激を受けやすい足趾に好発し、胼胝と異なり角栓があるため押さえると痛みがあります。胼胝と鶏眼の区別が難しいことがあり、いずれにしても角質の肥厚

が高度であれば歩行時の痛みがあり、不自然な歩行となって腰や膝の痛みを来すことがあります。根本治療は原因となっている外的刺激を取り除くことや、足の変形を矯正することは困難で、対症療法として定期的に角質を取り除くことが多く行われています。

足底疣贅は疣贅ウイルスによって生じるものですが、鶏眼と間違われることがあり、子供では「ウオノメ」を主訴に受診される場合ほとんどが足底疣贅です。鶏眼との違いはつまんだ方が痛みの強いことです。主として行われている治療は液体窒素による凍結療法です。

陥入爪・巻き爪は母趾にできやすく、原因は、深爪、外反母趾、あっていない靴による圧迫、爪白癬などの感染症や下肢の障害による爪の変形・肥厚があげられます。日常診療では巻き爪を主訴に受診された方でよく見られるのは短く切り過ぎている場合です。短く切ることで爪の末端が足の指に潜り込んだ状態となり痛みを生じてしまいます。足の爪を切る際にはなるべく爪をまっすぐ切り、角が潜り込まないようにすることが大事です。

はじめに述べたように足は自分の体重を支える重要な器官です。ちょっとしたことで歩行が不自由になったりするものです。日頃の働きに感謝してしっかり見つめてみてはいかがでしょうか。

